

保健体育 (中学校2年) 「ティーボール」

1. 授業の実際 授業校 千葉市立山王中学校 指導者 仲川 恵理子

(1) 単元名「球技 (ベースボール型・ティーボール)」

(2) 本時の目標 ・仲間と協力したり、助言し合いながら活動できる。 (関心・意欲・態度)  
 ・安定したバット操作や、体の回転を使った投球動作ができる。 (技能)

(3) 本時の展開 (6 / 11)

	学習内容・活動	評価方法及び評価規準
はじめ	1 集合・挨拶・健康観察を行う。 2 準備運動・ウォームアップを行う。 3 本時の流れとめあての確認をする。	◎2～4時間目に「基本的なバット操作、投球動作の練習を安全に正しく行う」ことについて学習し、5時間目と6時間目(本時)で評価する。
10分	ねらい・一人ひとりが打撃の充実感を味わおう。 ・チーム内でコミュニケーションをとり、技術的な課題やポイントを教え合おう。	
なか	4 基本的技能のチーム練習を行う。 ア、打撃(飛距離を計測) イ、キャッチボール ウ、的当て	評価① 練習の際、互いに技術的な課題やポイントについて助言したりして、取り組もうとしている。
35分	5 一人ひとりが打撃の充実感を味わうための簡易ゲームを行う。(1ゲーム行う) 《ルール説明》 ・攻撃は2回で、1回の攻撃につき4打席とする。6人チームは2人が、7人チームは1人が2打席分打つことができる。 ・2回の攻撃(計8打席)での総得点で勝敗を競う。 ・残塁はなしとする。 ・得点は、進んだ塁の場所で決まる。1塁→1点、2塁→2点、3塁→3点とする。最大3点まで。 ・守備は、タッチアウトはなしとする。 ・打者が走塁をしてきたときに、守備がベースを踏んでいる状態でボールを触った時点でアウトとする。ボールをその後落としてもアウト扱いとする。 ・守備がフライをノーバウンドでキャッチした場合、その打席は0点となる。 ・ホームベースから5m以内の打球はアウトとする。	◎努力を要する状況の生徒への手立て ・個別にアドバイスする。 ・仲間の動きを観察させる。 ・チームの仲間がその生徒に適切なアドバイスができるように、教えるポイントを伝える。 ◎十分満足できると判断されるもの ・練習の際、仲間の課題や工夫できる所を自主的に助言している。 ・練習の際、仲間の良い所を見つけ、誉める。
まとめ	○片づけ ○学習カードで評価・反省を行う。	評価② 安定したバット操作や、体の回転を使った投球動作ができる。
5分	○集合・整列・挨拶を行う。	◎努力を要する状況の生徒への手立て ・個別にアドバイスする。 ・チームの仲間がその生徒に適切なアドバイスができるように、教えるポイントを伝える。 ◎十分満足できると判断されるもの ・簡易ゲームの際、安定したバット操作で打撃の充実感を味わっている。 ・守備の際、捕球・投球がスムーズにできている。
		◎学習カード記入の際、本時のねらいの反省と評価項目の確認を行い、生徒間の学習の様子を判断する手がかりとする。

2. 成果と課題

(1) 成果は、子どもが意欲的に活動し、友達同士で教え合う場面が多く見られたことである。運動が苦手な子ども、前向きに取り組む、ゲームで活躍していた。

(2) 課題は、来年度に行うソフトボールへの繋げ方である。ルールが正規のものに近づくので、より戦術面の工夫ができるようにしていきたい。